



 **神崎市水源地域振興計画**



つなぐ 城原川プロジェクト

神崎市水源地域活性化推進会議 事務局

神崎市 総務企画部 企画課 水源地域振興係  
〒842-8601 佐賀県神崎市神崎町鶴3542番地1  
TEL : 0952-37-0102 FAX : 0952-52-1120

# 神崎市水源地域振興計画概要

## 目的と趣旨

### |01 計画策定の目的

地域を洪水からまもる城原川ダムの建設に伴い、水没予定地周辺地域の生産機能及び生活環境などが著しい影響を受けることが考えられます。神崎市水源地域振興計画は、城原川ダム水源地域及び上流域の地域活性化を図ることを目的に、委員会やワークショップでの検討を踏まえ、城原川ダムにかかわる水源地域の将来像及び地域振興のための施策について取りまとめたものです。

### |02 計画の対象

城原川ダムの水源地域となる脊振地区及びその周辺地域

### |03 計画策定までの流れ

行政機関、学識者、住民組織、活動団体、関連団体の代表からなる「神崎市水源地域振興対策検討委員会」を設置して計画づくりを進めました。また、地域における多様な視点からの意見集約を図るために、「神崎市水源地域振興対策検討ワークショップ」を設置して、テーマに即して活発な意見交換を図りました。

### |04 本計画の位置づけ

神崎市の上位計画にあたる、第2次神崎市総合計画、神崎市総合戦略、神崎市人口ビジョンに加え、対象範囲全域を含む脊振地区を対象とした、過疎地域持続的発展計画等の関連計画も踏まえて取りまとめています。



## 城原川ダム建設予定地域の概況

### |01 位置

南北に細長い神崎市において、ダム水源地域は、市の北部から中央部にかけての範囲です。西部を佐賀市、北部を福岡市、東部を吉野ヶ里町と接しています。

### |02 歴史

現在の神崎市は、平成18年3月に3つの町村（神崎町、脊振村、千代田町）が合併してできました。ダムの水源地域はその中の旧脊振村及び旧神崎町の6地区（仁比山、朝日、小淵、的、三谷、志波屋）からなる地域です。脊振山一帯は山岳仏教で名高い地域であり、多くの遺構や社寺があります。

### |03 交通

水源地域は、各市町に続く県道21号（三瀬神崎線）や県道46号（中原三瀬線）、県道51号（佐賀脊振線）が整備されており、令和2年4月1日からデマンドタクシーによる新たな運行が実施されています。

### |04 産業

第1次産業従事者の割合は、神崎市全体では9.0%に対してダム水源地域では15.5%と高く、農林業が主体となっています（平成17年時点）。農業では、しいたけ、干し柿、高冷地野菜等が栽培されており、林業では、林道の開設、改良、舗装等、林業振興事業を重点的に進めています。



## 水源地域及び周辺資源マップ

0 1.0 2.0 3.0km



### |05 観光

豊かな自然に恵まれた脊振山一帯は県立自然公園区域に指定されており、高取山公園の農産物直売所やレストランがあります。また、神崎町には九年庵や仁比山神社等の歴史的建造物や、仁比山公園の親水空間などがあります。他にも「長崎街道かんだき宿場まつり」、「わんぱくまつり」や「城原川ハンギーマつり」といった行事があります。

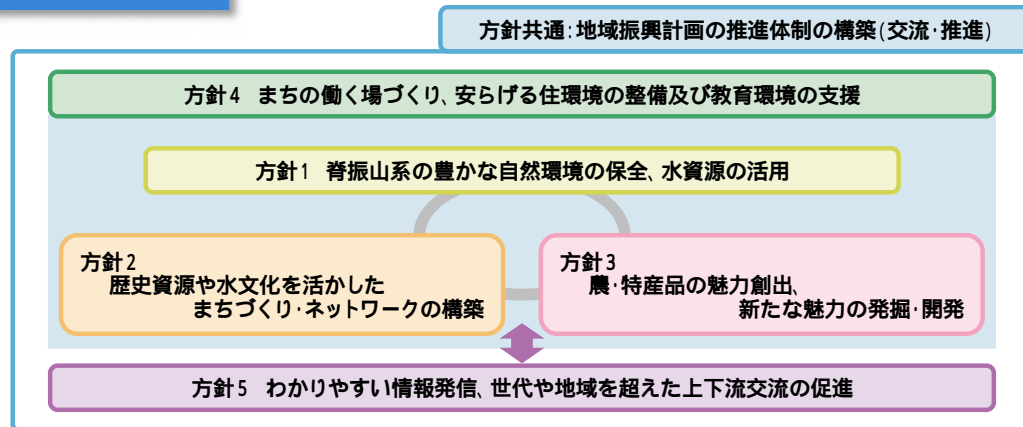
### |06 人口

令和2（2020）年の国勢調査における神崎市の人口は31,022人となり、10年前と比べて約6%減少しています。将来人口は、30年後の2045年には24,283人となり、人口が1/4程度減少する推計結果となっています。特にダム水源地域を含む市の北部の方が人口の減少率は大きくなっており、それに伴い少子高齢化も進んでいくことが予測されます。

# ～ 脊振山から城原川下流へ 水が育む

定住・交流・関係人口の増加による生活・集落機能の維持・向上

## 地域の将来像と基本方針



## 基本方針と具体的施策の例示

基本方針	具体的施策(大項目)	具体的施策(小項目)
方針-1 脊振山系の豊かな自然環境の保全、水資源の活用	(1) 水源の森、自然環境の保全・管理	①人工林の間伐の推進及びバイオマスエネルギーの活用 ②自然環境の保全・管理 ③植林、育林等の山林育成事業、木工教室等の自然体験事業・県産材PR事業の支援
	(2) 城原川流域の河川、水資源(観光や水力発電等)での活用	①湛水区域のダム周辺整備 ②小流水車を活用した水車米のブランド化 ③城原川流域の水を活用した小水力発電の展開
方針-2 歴史資源や水文化を活かしたまちづくり・ネットワークの構築	(1) 歴史資源等をつなげた観光振興(魅力をつなげる、物語を作る)、賑わいのあるまちづくり	①歴史・文化資源を結んだ観光ルートの開発 ②周辺自治体等と連携した観光ルートの開発
	(2) 水文化の継承、水車の活用	①水文化に関する勉強会の実施
方針-3 農・特産品の魅力創出、新たな魅力の発掘・開発	(1) 農・特産品のブランドづくり	①城原川ダム水源地域の特産品のブランディング ②生産者増加による出品物の確保
	(2) 新たな魅力の発掘・創出	①生きがい就労の確保(貸農園・体験農園の展開) ②体験型観光の拠点の整備(キャンプ場、マウンテンバイク等のアウトドア、フォレストアドベンチャー、ボルダリング等)
方針-4 まちの働く場づくり、安らげる住環境の整備及び教育環境の支援	(1) 移住者支援・定住人口の確保	①空き家・空き地バンク制度の活用 ②お試し移住(シェアハウス・ゲストハウス)の仕組み構築 ③空き家のリノベーションによるシェアオフィスの整備(個人事業者の誘致) ④代替移転地の誘致及びダム周辺での基盤整備
	(2) 交流・体験活動及び教育環境の支援	①脊振交流センターの活用 ②ふるさと学習の推進 ③体験学習への支援 ④まちづくり人材バンクの確立(住民ができることを分野に分けて登録)
方針-5 わかりやすい情報発信、世代や地域を超えた上下流交流の促進	(1) わかりやすい情報発信	①ダム整備状況に関する継続的な情報発信 ②SNSなどを活用した情報発信 ③通信環境の整備
	(2) 下流受益地や住民への水源地域活性化の意識づけや上下流交流の推進	①水源地域活性化に関する意見交換(ワークショップ等)の実施 ②城原川ダムから上流・下流の流域住民を含めた上下流交流の推進
方針-共通 水源地域振興計画の推進体制の構築(交流・推進)		①水源地域振興計画の推進体制の整備 ②水源地域振興計画の推進に向けた住民が参加できる場づくり ③活動団体が自ら活動を継続していくための取組 ④国・県をはじめとする関係機関との連携

# 持続可能な地域づくり～



仁比山神社、九年庵周辺の修景



水車の里の魅力化、道路整備



城原川の親水整備



## “振興計画”と“委員会”について

本計画の策定にあたっては、行政機関、学識者、住民組織、活動団体、関連団体の代表者で組織される神崎市水源地域振興対策検討委員会(委員長 五十嵐勉佐賀大学全学教育機構教授)において、以下に掲げる事項を中心に協議及び検討を進めてきました。これらを踏まえて、令和5年3月に神崎市水源地域振興計画(案)としてとりまとめを行いました。

- (1) 基本構想に関する事
- (2) 振興計画に関する事
- (3) 城原川ダムに係る水源地域振興に関する基本構想及び振興計画の策定に関し、必要な事項に関する事

### 神崎市水源地域振興対策検討委員会名簿

	団体名(職名)	人数	
委員	学識経験を有する者	2	
	市議会議員	1	
	城原川ダムに関わる住民団体を代表する者	3	
	区長会を代表する者	3	
	神崎市商工会を代表する者	1	
	J A さが神埼地区女性部脊振支部を代表する者	1	
	脊振育友会を代表する者	1	
	神崎市観光協会を代表する者	1	
	高取山公園農産物出荷部会を代表する者	1	
	まちづくり団体を代表する者	3	
	国土交通省 武雄河川事務所長	1	
	佐賀県 県土整備部 城原川ダム等対策室長	1	
	産業建設部長	1	
	産業建設部 農政水産担当理事	1	
総務企画部 企画調整担当理事	1		
脊振支所長	1		
公募により選出する者	2		
年度により若干の人数の増減あり	計	25	
事務局	産業建設部	1	
	産業建設部ダム対策課	3	
		計	4



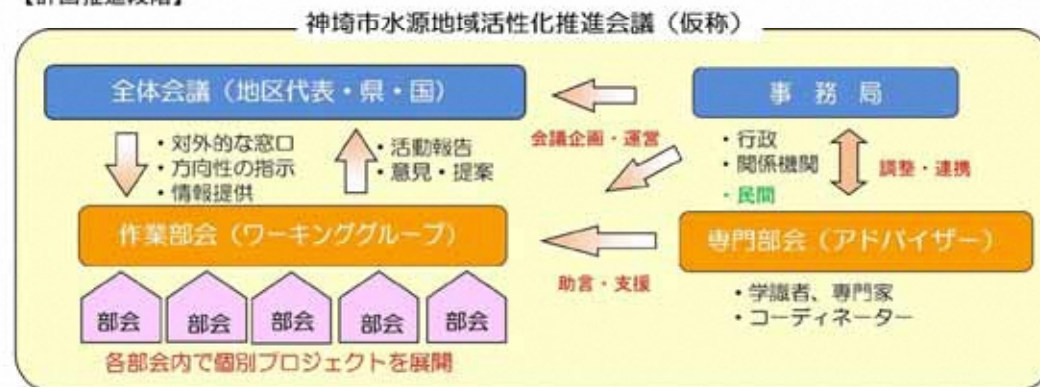
## 推進体制 について

神崎市水源地域振興計画の推進にあたっては、計画策定時の検討委員会を発展的に解消し、  
 具体の施策に関わるメンバーを加えて「神崎市水源地域活性化推進会議（仮称）」を設立し、  
 個々の具体的な施策を進めていくものとします。

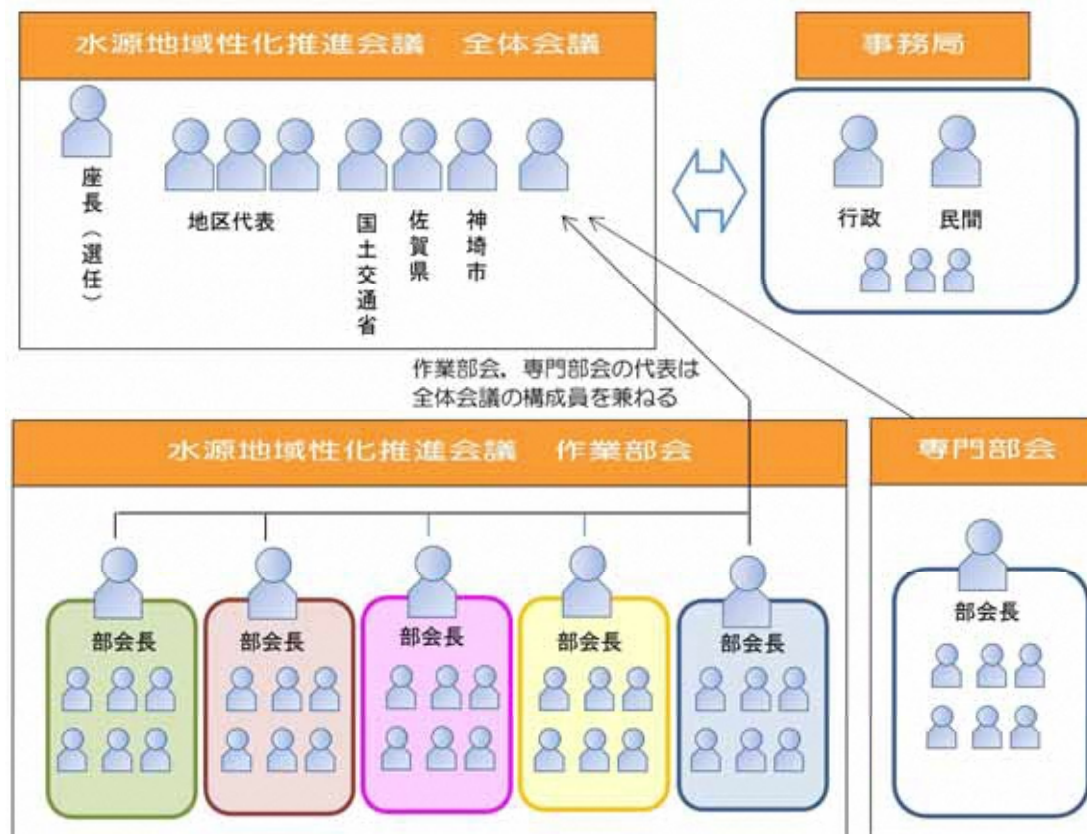
【計画策定段階】



【計画推進段階】



計画の推進体制イメージ



推進会議（仮称）の各組織の役割や構成例

## 推進イメージ について

具体的な施策を推進するための個別のプロジェクトは、5つの方針別に推進組織の中で検討し、  
 参画する関係団体の意向や既存の取組との関係性等から、先行して実施可能なものから  
 順次進めていくものとします。

基本方針	施策(大項目)	プロジェクトの例
脊振山系の豊かな自然環境の 保全、水資源の活用 	(1) 水源の森、自然環境の保全・管理	森林資源バイオマス活用 間伐促進 脊振の景観・自然環境保全
	(2) 城原川流域の河川、水資源(観光や水力発電等)での活用	植林・育林活性化 城原川ダム周辺整備 水車の里再生
歴史資源や水文化を活かした まちづくり・ネットワークの構築 	(1) 歴史資源等をつなげた観光振興、賑わいのあるまちづくり	観光資源ネットワーク 観光ルート魅力化 観光市民ガイド育成
	(2) 水文化の継承、水車の活用	広域観光連携 水の郷再生
農・特産品の魅力創出、新たな 魅力の発掘・開発 	(1) 農・特産品のブランドづくり	特産品開発・ブランド化 農業応援
	(2) 新たな魅力の発掘・創出	体験農業展開 体験型観光創造
まちの働く場づくり、安らげる住 環境の整備及び教育環境の支援 	(1) 移住者支援・定住人口の確保	空き地・空き家活用活性化 新たな宅地創造 脊振交流センター活用
	(2) 交流・体験活動及び教育環境の支援	ふるさと学習コンテンツ拡大 交流イベント活性化 ふるさとの人財発掘 道路ネットワーク改善
わかりやすい情報発信、世代や 地域を超えた上下流交流の促進 	(1) わかりやすい情報発信	城原川ダムアピール ふるさと情報発信
	(2) 下流受益地や住民への地域活性化の意識づけや上下流交流の推進	フリーWi-Fiスポット拡大 ふるさと世代間交流推進 筑後川流域連携への参画